



## 4. ヘルスコミュニケーションウィーク 2023～福島～ 第15回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会報告

安村誠司

同大会長、福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座

### 1. はじめに

第15回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会（大会長 安村誠司）を、ヘルスコミュニケーションウィーク 2023～福島～（2023年9月30日～10月1日）の期間中に開催いたしました。学術集会企画として、2つのシンポジウムを企画し、応募のあった一般演題の発表を行いました。

### 2. 第15回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会シンポジウム

シンポジウムⅠのテーマは「原発事故・コロナで見られた未知なる不安への対応」であり、座長は渡邊清高病院教授（帝京大学内科学講座）、田巻倫明教授（福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座）にお願いしました。シンポジウムⅠでは、リスクコミュニケーションやメディアリテラシー、情報の信頼性を評価し質を向上する取り組み、そしてリスク認知の視点で、未知なる不安への対応においてみられた課題と可能性について議論されました。

シンポジウムⅡのテーマは、「新型コロナウイルス感染症、そして、今後の健康リスク」であり、座長は坪倉正治教授（福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座）、加藤美生主任研究官（国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター クライシスコミュニケーション室）にお願いしました。シンポジウムⅡでは、デジタル化の発展、ソーシャルメディアやインターネットの利用拡大により、情報がより迅速に拡散される現代において、既知のリスクだけでなく、評価が変わるようなリスクや未知の健康リスクに対するリスクコミュニケーションについて議論されました。

### 3. 一般演題

一般演題はすべて口演により行われ、第15回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会としては、計7つの口述演題セッションのうち6セッションの30演題、オンデマンド配信のみの7演題で計37演題の発表が行われました。また、全ての演題はオンデマンド配信され、掲示板を利用した質疑応答が可能でした。

### 4. 結びに

本学術集会のシンポジウムは、ヘルスコミュニケーションウィーク 2023～福島～ のメインテーマである「『未知なる不安』に対応するヘルスコミュニケーション—原子力災害・コロナ禍を経験して—」を意識し、福島から発信する意義を踏まえ趣向を凝らした企画としました。一般演題はいずれも特色ある興味深い内容であり、学術集会参加者にとって有益なものであったと確信しております。来年度の「ヘルスコミュニケーションウィーク 2024 in Yokohama」においても、多くの参加者と意見交換できることを祈念しております。